

FD NEWSLETTER



CONTENTS

- 授業改善への小さな一歩
文学部 学部長 橋詰 直道
- 2018 年度「学生による授業アンケート」
(後期) 集計結果
- 「良き研究者であり、良き教育者」
仏教学部講師 徳野 崇行
- 学生が選ぶベスト・ティーチング賞
授賞式
- 平成 30 年度第 5 回 FD 研修会報告
■ ダイバーシティから
インクルージョンへ
- 平成 30 年度第 6 回 FD 研修会報告
■ 平成 30 年度 BTA 受賞科目にみる
教育方法と教育活動の質の向上
- 平成 31 年度新規採用教員
オリエンテーション開催のお知らせ

授業改善への小さな一歩

文学部 学部長 橋詰 直道

本学でも YeStudy や C-Learning といったさまざまな機能をもった授業支援ソフトが導入されている。私も YeStudy を 10 年ほど前から利用している。それを活用するまでには至っていないが便利であり、高齢教員の私でもこの YeStudy の教材提示、レポート回収などの機能を使って授業を工夫している。以下に FD とは言えないまでも、私の担当する地理学科の専門科目の授業での小さな試みと課題について紹介することで、ご批判やご意見をいただければと思う。

まず、シラバスに沿って授業の要点をまとめた教材プリントを少なくとも授業の 2 週間前には YeStudy にアップロードしている。これには 24 コマ (A4 用紙に 6 コマ 4 枚分) のパワーポイントの画像情報を盛り込んである。授業当日には、それと同じものを A3 用紙の裏表に印刷して受講者に配布すると同時に、学生は私が持参したノート PC に接続したバーコードリーダーで自身の学生証のバーコードを読み取らせる方法で出席管理をしている。今は C-Learning を利用すれば出席管理が簡単であることは承知しているが、受講学生一人ひとりが教卓脇で出席入力をするという、古くさいが顔が見える出席確認方法を採用している。

YeStudy への教材プリントの事前アップの目的は、もちろん自宅で予習をして授業に臨むという学習姿勢の習慣化にあるが、この実現はかなり難しい。そのことは恥ずかしながら、学生によるアンケート調査の結果でも明らかで、今年度前期科目の場合、「この授業にあてた予習の時間は」という問いに約半数の学生が「全くしていない」と回答していることからわかる。その原因を学生の学習意欲の低さにあると片付けてしまうと、FD とはならないので、自らの授業方法に求める必要がある。例えば、事前にアップした肝心の教材プリントに、各講義の目的や何をどこまで予習すれば理解が深まるかなど、具体的に指示しておけば予習へ繋がる可能性が高まるだろう。この点は次年度から改良し実施してみたい。加えて、授業内容を知識として定着させるためには、毎回の授業の最後の小テストや、その日わかったことやキーワード、新たな疑問などを記入して提出させるなどの工夫も必要だろう。

専門科目の場合、できる限り多くの研究成果や具体的事例を講義することを最優先してきたので、毎回授業終了時には時間的余裕がなくなってしまい、後者のような工夫ができなかった。この点を解決するには、従来の伝達型講義を、予習 + 復習型の能動的学習を育む授業へとシフトチェンジする必要がある。最終的には、学生が予習・復習を習慣化することで、より理解を深め、さらに専門的な興味関心へと発展させるための授業改善が必要だろう。そのための「小さな一歩」を残された時間で試みたい。

2018 年度「学生による授業アンケート」(後期) の集計結果について

2018 年度「学生による授業アンケート」(後期)を以下のとおり実施した。

実施期間 平成 30 年 11 月 5 日 (月) ~ 11 月 24 日 (土)
対象科目数 1,754 科目
対象者数 133,754 人 (延べ人数)
回答率 37.5%

【質問項目】

Q1. どのような理由でこの授業を履修しましたか。(複数選択可)

- 7: シラバスを見て授業内容に興味を持った
- 6: シラバス以外の情報 (友人等) により、授業内容に興味を持った
- 5: 履修モデル (コース制等) を見て決めた
- 4: 資格の取得
- 3: 必修科目または選択科目だったから
- 2: 時間割 (曜日時限) を考慮して決めた
- 1: その他

Q2. この授業の予習に当てている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

Q3. この授業の復習に当てている時間は 1 週間に何時間くらいですか。

(Q2・3 選択肢)

- 5: 3 時間以上
- 4: 2 時間以上~3 時間未満
- 3: 1 時間以上~2 時間未満
- 2: 1 時間未満
- 1: 全くしていない

Q4. あなたは授業に熱心に取り組んでいますか。

(Q4 の選択肢は Q18 の後に記載)

Q5. この授業を何回欠席しましたか。

- 5: 0 回
- 4: 1~2 回
- 3: 3~4 回
- 2: 5~6 回
- 1: 7 回以上

Q6. 授業はほぼ定刻通りに実施されていますか。

Q7. 通常通り、授業回数は確保されていますか。(補講・

YeStudy 等による課題授業含む)

Q8. 授業にはおおむねシラバスの内容が反映されていますか。

Q9. この授業の進み方はあなたにとって適切ですか。

(Q6~9 の選択肢は Q18 の後に記載)

Q10. 教科書・配布資料等は授業内容を理解する上で効果的ですか。

5: そう思う

4: ややそう思う

3: どちらとも言えない

2: ややそう思わない

1: そう思わない

0: 教科書・配布資料等がない授業

Q11. 担当教員の授業への取り組みには熱意が感じられますか。

Q12. 教員の話し方・ボリュームは聞き取りやすいですか。

(Q11・12 の選択肢は Q18 の後に記載)

Q13. 板書や投影されたスクリーンの文字・図表等は見やすいですか。

5: そう思う

4: ややそう思う

3: どちらとも言えない

2: ややそう思わない

1: そう思わない

0: 板書・スクリーンの投影がない授業

Q14. 教員は授業内容に沿った授業環境・雰囲気づくりに配慮していますか。

(Q14 の選択肢は Q21 の後に記載)

Q15. 教員はあなたの意見や質問に対して適切に対応していますか。

5: そう思う

4: ややそう思う

3: どちらとも言えない

2: ややそう思わない

1: そう思わない

0: あなたが当該授業において意見・質問をしたことがない場合

Q16. この科目の授業内容についてよく理解できていますか。

Q17. 授業内容に興味を持っていますか。

Q18. あなたはこの授業の到達目標を達成できると思いますか。

(Q4・6~9・11・12・14・16~18 選択肢)

5: そう思う

4: ややそう思う

3: どちらとも言えない

2: ややそう思わない

1: そう思わない

Q19. 教員自由設定質問 (選択)

Q20. 教員自由設定設問 (記述)

Q21. この授業のよかった点を具体的に記入してください。

Q22. この授業の改善してほしい点を具体的に記入してください。

Q23. 所属学部学科等

20: 仏教 19: 国文 18: 英米文 17: 地理 16: 日本史学

15: 外国史学 14: 考古学 13: 社会学 12: 社会福祉学

11: 心理 10: 経済 9: 商 8: 現代応用経済

7: 法律A 6: 法律B 5: 政治 4: 経営 3: 市場戦略

2: 診療放射線技術科 1: グローバル・メディア

Q24. 学年

5: 4年 4: 3年 3: 2年 2: 1年 1: その他

Q25. どのような入学試験を受け、あなたは本学に入学しましたか。

11: 一般入試 10: 大学入試センター試験利用入試

9: 一般推薦入試・自己推薦入試

8: スポーツ推薦入試 7: 指定校推薦 6: 付属校推薦入試

5: 留学生特別入試 4: 帰国生特別入試 3: 編入学試験

2: その他の試験 1: 回答しない

【学年別平均値】

表1はアンケート質問項目(Q2~18)の学年別平均値を示したものである。

表1 学年別の平均値

学年別	1年	2年	3年	4年	その他
Q2 平均値	1.5	1.6	1.5	1.8	-
Q3 平均値	1.6	1.7	1.7	1.9	-
Q4 平均値	3.9	3.8	3.8	3.9	-
Q5 平均値	4.4	4.3	4.1	3.7	-
Q6 平均値	4.6	4.6	4.6	4.6	-
Q7 平均値	4.7	4.7	4.7	4.7	-
Q8 平均値	4.6	4.6	4.5	4.6	-
Q9 平均値	4.2	4.2	4.3	4.4	-
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.4	-
Q11 平均値	4.5	4.5	4.5	4.6	-
Q12 平均値	4.4	4.4	4.4	4.6	-
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	-
Q14 平均値	4.3	4.4	4.4	4.5	-
Q15 平均値	4.4	4.4	4.4	4.5	-
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	-
Q17 平均値	4.0	4.0	4.1	4.3	-
Q18 平均値	3.9	3.9	3.9	4.1	-
有効回答数	18,246	13,034	7,517	2,057	-

【入試形態との関連】

2010 年度より、入試形態と学生の授業への取り組み（出席状況、予習・復習時間など）との関連を把握するために入学試験タイプの質問を追加している（Q25）。なお回答は任意とした（回答率 98.3%）。（表 2 入学形態別の項目別平均値）

表 2 入試形態別の項目別平均値（Q2～18）

入試形態別	一般入試	大学入試センター試験 利用入試	一般推薦入試・ 自己推薦入試	スポーツ推薦入試	指定校推薦	附属校推薦入試	留学生特別入試	帰国生特別入試	編入学試験	その他	回答しない
Q2 平均値	1.5	1.5	1.6	1.7	1.6	1.5	2.3	1.8	1.6	1.6	1.5
Q3 平均値	1.6	1.6	1.6	1.8	1.6	1.5	2.5	2.0	1.7	1.7	1.6
Q4 平均値	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9	4.3	3.7	3.9	3.9	3.6
Q5 平均値	4.3	4.1	4.2	4.1	4.4	4.4	4.3	4.1	4.2	4.3	4.3
Q6 平均値	4.6	4.5	4.6	4.6	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.4
Q7 平均値	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.5
Q8 平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.3
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.5	4.2	4.5	4.3	3.9
Q10 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.5	4.3	4.5	4.3	4.0
Q11 平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4	4.5	4.7	4.6	4.6	4.6	4.3
Q12 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6	4.5	4.5	4.1
Q13 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.6	4.2	4.4	4.3	3.8
Q14 平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.6	4.3	4.5	4.5	4.1
Q15 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5	4.7	4.4	4.5	4.5	4.2
Q16 平均値	4.0	3.9	3.9	4.0	3.8	4.0	4.4	3.9	4.1	3.9	3.6
Q17 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	4.4	4.1	4.1	4.0	3.7
Q18 平均値	3.9	3.9	3.9	4.0	3.8	3.9	4.3	3.9	4.0	3.9	3.5
有効回答数	21,978	3,889	3,506	986	4,902	3,101	699	100	420	357	916

【学部学科・専攻・部門別集計結果】授業担当者の所属別に、専任教員と非常勤教員を分けて集計をした。

表3 教員所属の学科・専攻・部門別平均値 (Q2~18)

※「-」は前期アンケート対象科目なし

(学部)学科等	(仏教) 禅			(仏教) 仏教			(文) 国文			(文) 英米文		
	専任・非常勤	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専
Q2 平均値	1.5	1.5	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.7	1.5	1.7	1.7	1.6
Q3 平均値	1.5	1.5	1.8	1.6	1.6	1.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6
Q4 平均値	3.5	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0
Q5 平均値	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.6	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2
Q6 平均値	4.3	4.3	4.6	4.4	4.3	4.6	4.7	4.6	4.7	4.6	4.6	4.8
Q7 平均値	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.9
Q8 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3
Q10 平均値	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.5
Q11 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.7	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6
Q12 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.7
Q13 平均値	4.1	4.1	4.3	4.1	4.0	4.2	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	4.6
Q14 平均値	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.4
Q15 平均値	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.6	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5
Q16 平均値	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	4.0	3.9	4.0	4.1	4.1	4.1
Q17 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.8	4.0	4.1	4.0	4.2	4.0	4.0	3.9
Q18 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	3.9
有効回答数	1,677			2,006			1,194			604		

(学部)学科等	(文) 地域文化			(文) 地域環境			(文) 日本史学			(文) 外国史学		
	専任・非常勤	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専
Q2 平均値	1.5	1.4	1.6	1.5	1.5	1.4	1.6	1.6	1.6	1.7	1.6	1.7
Q3 平均値	1.6	1.6	1.6	1.7	1.8	1.5	1.6	1.6	1.7	1.7	1.8	1.6
Q4 平均値	3.9	3.8	4.0	3.9	4.0	3.8	3.9	4.0	3.8	4.0	4.1	3.9
Q5 平均値	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.2	4.2	4.3	4.3	4.4	4.3
Q6 平均値	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.6	4.4	4.2	4.8	4.8	4.7	4.8
Q7 平均値	4.7	4.7	4.7	4.8	4.8	4.7	4.6	4.5	4.7	4.7	4.6	4.8
Q8 平均値	4.6	4.5	4.6	4.7	4.8	4.7	4.5	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7
Q9 平均値	4.3	4.2	4.5	4.4	4.3	4.6	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4
Q10 平均値	4.3	4.3	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4
Q11 平均値	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7	4.6	4.7
Q12 平均値	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.3	4.5	4.5	4.3	4.7
Q13 平均値	4.3	4.2	4.5	4.4	4.4	4.3	4.1	4.0	4.3	4.2	4.2	4.3
Q14 平均値	4.4	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5
Q15 平均値	4.4	4.4	4.5	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.5	4.7
Q16 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	3.8	4.1	4.0	4.1	3.9	4.0	4.0	4.1
Q17 平均値	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.1	4.2	4.1	4.2
Q18 平均値	4.0	3.9	4.1	3.9	3.9	4.1	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9	4.0
有効回答数	805			639			1,012			700		

(学部)学科等	(文) 考古学			(文) 社会学			(文) 社会福祉学			(文) 心理		
	専任・非常勤	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専
Q2 平均値	1.5	1.6	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4	1.4	1.3	1.4
Q3 平均値	1.7	1.8	1.6	1.6	1.7	1.6	1.4	1.3	1.5	1.5	1.5	1.5
Q4 平均値	3.8	4.0	3.7	3.9	3.4	4.0	3.9	3.9	4.0	3.9	4.0	3.9
Q5 平均値	4.3	4.3	4.2	4.3	4.6	4.3	4.4	4.4	4.4	4.3	4.6	4.3
Q6 平均値	4.7	4.6	4.8	4.5	4.3	4.6	4.7	4.8	4.6	4.6	4.7	4.6
Q7 平均値	4.7	4.7	4.8	4.8	4.6	4.8	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.8
Q8 平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6
Q9 平均値	4.3	4.4	4.3	3.9	4.1	3.9	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4
Q10 平均値	4.4	4.6	4.3	4.0	3.6	4.1	4.5	4.6	4.3	4.4	4.4	4.3
Q11 平均値	4.6	4.7	4.6	4.2	4.0	4.3	4.6	4.7	4.5	4.6	4.6	4.6
Q12 平均値	4.3	4.2	4.5	3.9	3.8	3.9	4.5	4.6	4.2	4.5	4.3	4.5
Q13 平均値	4.2	4.3	4.2	3.9	3.5	3.9	4.3	4.4	4.1	4.4	4.4	4.4
Q14 平均値	4.4	4.6	4.4	4.1	3.7	4.1	4.4	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5
Q15 平均値	4.4	4.6	4.2	4.0	3.8	4.0	4.5	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6
Q16 平均値	3.9	3.9	3.9	3.7	3.3	3.7	4.1	4.2	4.1	4.0	4.0	4.0
Q17 平均値	4.0	4.1	3.9	3.7	3.4	3.7	4.2	4.3	4.1	4.2	4.3	4.2
Q18 平均値	3.8	3.9	3.8	3.7	3.6	3.7	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	4.0
有効回答数	415			468			822			2,040		

(学部)学科等	(経済) 経済			(経済) 商			(経済) 現代応用経済			(法) 法律		
	専任・非常勤	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専
Q2 平均値	1.6	1.6	1.6	1.5	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.6	1.6	1.5
Q3 平均値	1.7	1.7	1.7	1.6	1.7	1.6	1.6	1.7	1.5	1.7	1.8	1.6
Q4 平均値	3.8	3.9	3.8	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.2	3.7	3.7	3.6
Q5 平均値	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.1	4.1	4.1
Q6 平均値	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.7	4.6	4.8	4.4	4.4	4.5
Q7 平均値	4.6	4.6	4.7	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.8	4.5	4.5	4.6
Q8 平均値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.4	4.4	4.5
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.4	4.4	4.5	4.0	3.9	4.1
Q10 平均値	4.3	4.4	4.3	4.2	4.2	4.4	4.5	4.4	4.6	4.1	4.1	4.1
Q11 平均値	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.6	4.6	4.6	4.6	4.3	4.3	4.4
Q12 平均値	4.4	4.4	4.4	4.5	4.4	4.5	4.6	4.6	4.7	4.3	4.2	4.4
Q13 平均値	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	3.9	3.8	4.0
Q14 平均値	4.3	4.4	4.3	4.4	4.4	4.4	4.5	4.5	4.6	4.2	4.2	4.3
Q15 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.5	4.6	4.3	4.2	4.3
Q16 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.2	4.1	4.0	4.3	3.6	3.6	3.8
Q17 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.2	4.3	4.2	4.4	3.8	3.8	3.9
Q18 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.2	4.1	4.0	4.3	3.6	3.6	3.8
有効回答数	2,884			1,195			1,334			4,053		

(学部)学科等	(法) 政治			(経営) 経営			(経営) 市場戦略			(医療)		
	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非
専任・非常勤												
Q2 平均値	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.5	1.6	1.5	1.3	1.3	1.2
Q3 平均値	1.7	1.8	1.7	1.7	1.7	1.8	1.7	1.7	1.6	1.6	1.7	1.4
Q4 平均値	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.8	3.7	3.9	3.9	3.9	3.9
Q5 平均値	4.1	4.0	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.1	4.7	4.8	4.6
Q6 平均値	4.5	4.6	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.7	4.6	4.6	4.9
Q7 平均値	4.6	4.7	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.6	4.8	4.7	4.7	4.8
Q8 平均値	4.5	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7
Q9 平均値	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.4	4.3	4.6
Q10 平均値	4.2	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.4	4.4	4.6
Q11 平均値	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.6	4.6	4.7
Q12 平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.5	4.2	4.1	4.4	4.5	4.5	4.7
Q13 平均値	4.0	4.0	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.0	4.1	4.4	4.4	4.7
Q14 平均値	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.3	4.5	4.5	4.7
Q15 平均値	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.6	4.6	4.7
Q16 平均値	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.9	4.1	4.0	4.3
Q17 平均値	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	4.0	4.0	3.9	4.1	4.2	4.2	4.3
Q18 平均値	3.8	3.8	3.8	3.9	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	4.1	4.1	4.3
有効回答数	1,989			2,462			1,492			631		

(学部)学科等	(GMS)			(総合) 文化学			(総合) 自然科学			(総合) 日本文化		
	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非
専任・非常勤												
Q2 平均値	1.7	1.5	2.0	1.3	1.3	1.3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
Q3 平均値	1.8	1.7	1.9	1.4	1.4	1.5	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5
Q4 平均値	4.0	3.9	4.0	3.7	3.7	3.7	4.0	3.9	4.0	4.0	3.9	4.0
Q5 平均値	4.4	4.4	4.3	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3
Q6 平均値	4.8	4.8	4.9	4.5	4.5	4.5	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8
Q7 平均値	4.8	4.8	4.9	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7
Q8 平均値	4.7	4.6	4.8	4.5	4.5	4.5	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.6
Q9 平均値	4.4	4.3	4.5	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.4
Q10 平均値	4.4	4.3	4.5	4.2	4.2	4.2	4.4	4.4	4.3	4.5	4.5	4.5
Q11 平均値	4.6	4.5	4.7	4.4	4.4	4.4	4.5	4.6	4.4	4.7	4.7	4.6
Q12 平均値	4.6	4.5	4.7	4.2	4.2	4.2	4.5	4.6	4.3	4.5	4.6	4.4
Q13 平均値	4.4	4.4	4.4	4.0	4.1	3.9	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3	4.3
Q14 平均値	4.5	4.4	4.6	4.2	4.2	4.2	4.4	4.5	4.3	4.5	4.5	4.5
Q15 平均値	4.6	4.5	4.7	4.3	4.3	4.3	4.5	4.5	4.4	4.5	4.5	4.4
Q16 平均値	4.1	4.0	4.3	3.7	3.8	3.7	4.1	4.1	4.0	4.2	4.2	4.1
Q17 平均値	4.1	4.1	4.2	3.8	3.9	3.8	4.2	4.2	4.2	4.3	4.3	4.3
Q18 平均値	4.0	4.0	4.1	3.8	3.8	3.7	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.1
有効回答数	1,470			2,889			1,669			743		

(学部)学科等	(総合) 外国語一			(総合) 外国語二			(総合) スポーツ			(総合) 教職課程		
	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非	全体	専	非
Q2 平均値	1.9	1.9	1.9	1.9	1.6	2.0	1.3	1.4	1.2	1.4	1.6	1.4
Q3 平均値	1.8	1.6	1.8	1.9	1.7	2.1	1.3	1.4	1.2	1.5	1.6	1.5
Q4 平均値	4.0	3.9	4.0	4.1	3.8	4.2	4.4	4.4	4.6	4.0	4.1	4.0
Q5 平均値	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.4	4.5	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5
Q6 平均値	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.5	4.7	4.7	4.7	4.7	4.8	4.7
Q7 平均値	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7	4.8	4.9	4.7
Q8 平均値	4.6	4.5	4.6	4.6	4.6	4.7	4.8	4.7	4.8	4.7	4.7	4.6
Q9 平均値	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.6	4.7	4.6	4.4	4.5	4.4
Q10 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4
Q11 平均値	4.6	4.6	4.6	4.6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.6
Q12 平均値	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.5	4.7	4.8	4.7	4.6	4.6	4.6
Q13 平均値	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.6	4.6	4.6	4.4	4.6	4.4
Q14 平均値	4.5	4.4	4.5	4.5	4.5	4.5	4.7	4.7	4.6	4.5	4.5	4.5
Q15 平均値	4.6	4.5	4.6	4.5	4.5	4.6	4.7	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5
Q16 平均値	4.2	4.2	4.2	4.0	3.9	4.1	4.6	4.6	4.7	4.2	4.3	4.2
Q17 平均値	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.6	4.6	4.7	4.3	4.3	4.3
Q18 平均値	4.1	4.0	4.1	4.0	3.9	4.0	4.5	4.5	4.6	4.2	4.2	4.2
有効回答数	2,384			1,396			898			883		

2018 年度「学生による授業アンケート（後期）」 集計結果の概況について

今回のアンケートの回答率は 37.5% であり、昨年度後期の回答率 37.1% に比してほぼ横ばいと言って良いであろう。受講者の多い科目ほど回答率が下がる、受講者の学年が上がるほど回答率が下がるという傾向も例年通りと言えようし、また専任教員より非常勤教員担当の科目の方が学生の回答率やや高いがその差は狭くなっていることも昨年後期同様である。ただし、専任教員、非常勤とも実施後の C-Learning ログイン率が下がっている点が危惧される。

現在、FD 推進委員会において授業アンケートに関して言えば、対象科目の拡大とアンケート結果の組織的な活用が課題とされている。どちらも容易には達成できない課題である。

現状 5,000 に近い開講科目のうち 2,000 に近い科目がアンケート対象外となっている。FD 推進委員会では、履修者 20 名以下の科目は除外というところ

から 10 名以下の科目は除外というところまで枠を広げようと摸索しているが、それだけでは 400 科目足らずの拡大に過ぎない。これを如何に拡大していくかという点がひとつの課題である。

また現在、原則として対象科目の担当教員のみがアンケート結果を見て、自身の改善に役立てることとなっているが、この結果を組織的に活用し各教員の授業改善に活かさないか、検討されている。

しかしながらいずれにせよ、授業アンケートの回答率と回答の質の向上が図られなければ、アンケート対象の拡大も結果の活用も意義あるものとはならないであろう。回答率を上げる試みとして今年前期のアンケートから、学生自身が回答をした科目については自由設問を除きすべての集計結果を閲覧可能としたこと、授業アンケート結果に対して担当教員が直接コメントを入力できる機能が利用できるようにしたが、現時点ではそれらがどれほど有効にはたらいたか。さらなる工夫が求められよう。

(FD 推進委員会小委員会委員・岩永正晴)

連載企画：よりよい教育のために

「良き研究者であり、良き教育者」

仏教学部講師 徳野 崇行

論題は私が尊敬する先生が座右の銘にしている言葉である。私は本学仏教学部の教員として奉職して4年を迎えるが、この言葉のようにありたいと思うものの、その実現の難しさを常に感じている。


講義を行い、試験の作成と採点、学生対応といった教員としての業務に加え、紀要編集といった学部内の業務、附置研究所の研究会への参加や発表、会計管理、禅ブランディング事業の企画の運営や Web コンテンツの作成、仏教行事への随喜や坐禅指導といった僧侶としての務めなど学内の業務は多岐にわたる。このような校務をこなしながら、「研究」を進めるためには「執念」とも言うべきメンタルの強さが必要だと感じている。

そうした中で時間をやりくりしながら自身が専門としている研究を進め、その内容を講義で意気揚々と話すと、大半の学生が興味を持たずに寝てしまう。研究として重要なことが必ずしも学生の興味を惹くものとは限らないし、学生の関心が高いものが研究で重要であることもそれほど多くはない。シラバスや講義用の資料を作成する時、「研究」のコンテンツをうまく「教育」のコンテンツに変換するためには何が必要なかをよく考える。研究と教育の相乗効果を生み出させる変換装置とは何なのか、という問いである。最近その一つが「教員自身の体験」を講義の際にうまく織り交ぜることではないかと考えている。

私は講義の中で、実際にフィールドワークで撮影した映像や写真を見せることがよくある。東北のシャーマンの調査で撮影した口寄せの映像を見せる際は、地元の人が口寄せする光景よりも、私の先祖がたまたま降りてきて、研究者であるはずの私が強制的に死者との対話をさせられている部分の方が、学生たちは映像を真剣に見ている。この時、私は「宗教学者が観察者として儀礼に参加しているにもかかわらず、宗教現象に巻き込まれてしまうのは宗教学者あるあるです」といった説明をしている。私自身が撮影した映像や写真を使うのは、講義の内容と

Web から獲得できる情報との差異化という意味もあるが、やはり一番の目的は話に説得力を持たせるためである。

「日本人は無宗教」といわれるように、学生にとって宗教の話はどこか自分たちとは違う世界の話として受け取られることが多い。しかし、「宗教学概論」「仏教民俗学」という講義の中で、私は自身が体験した「宗教の現場」のニオイや空気感を学生たちに話すことで、実は我々の身近な問題であることを伝えたい。それは学問のもつ楽しさや尊さを感じる価値観を養うことに繋がるのではないか。そうした期待を抱きながら、宗教に関するフィールドワークを続け、体験談がより多くできるようにつとめていきたい。研究と教育の両立はずっと続く課題である。

 学生が選ぶベスト・ティーチング賞授賞式

去る平成30年12月17日（月）午後12時10分より中央講堂において、第3回「学生が選ぶベスト・ティーチング賞（Best Teaching Award；以下、BTAと略称）」の授賞式が行われた。BTAの趣旨は、学生が運営し学生の投票によって受講者側からの評価を明らかにし、授業を行う教員を励まし、より良い授業の方法等を共有するところにある。学生が運営し受講生が評価するから「学生が選ぶ」という語が冠せられ、教員個人の人気投票ではなく、あくまで良き授業の評価であるから「Teacher」ではなく「Teaching」という語が選ばれている。

今年度のBTAの投票は、後期の「学生による授業アンケート」より早い11月3日から同月24日までの間に行われた。昨年よりはやめに投票を受け付けはじめたのはオータム・フェスティバルにおいて告知を行うためである。

運営にあたった学生FDスタッフ第3期生14名の内訳は仏教学部1名、文学部3名、法学部4名、経営学部5名、GMS学部1名であった。そして、投票結果に基づく学生FDスタッフによる選考、およびFD推進委員会の了承のもと、下記の3分野7講義が選ばれた。

〔全学共通科目部門〕

「心理学」

小野 洋平 先生

(文学部心理学科・非常勤講師)

- 「日本の文化と社会」加藤 之晴 先生
(総合教育研究部文化学部門・非常勤講師)
- 「ドイツ語 I Ab」 畠山寛先生
(総合教育研究部外国語第二部門・准教授)
- [専門教育科目部門]
- 「経営戦略論」 中村 公一 先生
(経営学部経営学科・教授)
- 「グローバル経営論」 各務 洋子 先生
(GMS 学部・教授)
- 「仏教民俗学」 徳野 崇行 先生
(仏教学部・講師)
- [教職科目部門]
- 「教職入門」 笠谷 一夫 先生
(総合教育研究部教職課程部門・非常勤講師)

受賞者には、FD推進委員会委員長である学長の長谷部八朗先生の代理として、副学長猿山義広先生から表彰状が授与され、学生FDスタッフから花束が贈呈された。中村公一先生の「経営戦略論」は年連続3回目の受賞となった。そのみならず今年は3部門それぞれから選出したため、多様な授業が新たに表彰の対象となった点は、昨年度時点での課題が少しく改善されたものであって、悦ばしい成果であろう。

なお今年度のBTA運営において特筆すべきは昨年にも優る学生FDスタッフのめざましい活躍であろう。投票期間をオータム・フェスティバルにあわせて早め告知を行ったこと、投票方法にグーグルフォームを用いたこと、3分野からの多様な選出など、新しい試みが彼等の発案で行われた。さらにFD推進委員会の承認のもと、希望する学生は来年度も切れ目なく学生FDスタッフとして活動できることとしたので、この活発で自主的な活動が来年度にも引き継がれることを期待したい。

(FD推進委員会小委員会委員・岩永 正晴)



(授賞式の様子)

平成 30 年度 第 5 回 F D 研修会報告 「ダイバーシティからインクルージョンへ」

12月4日(火)実施の第5回FD研修会は、猿山義広副学長先生が、標記タイトルで、以下の2点を目的としてお話しくださいました。

- ①日本の大学における留学生と障がい学生の実態について、理解する。
- ②多様な学生とともに成長していける大学を目指すインクルージョンを阻むアンコンシャスバイアスについて知り、その対策について理解を深める。

①留学生と障がい学生の実態について

最初に、日本学生支援機構が実施した「平成27年度 私費外国人留学生生活実態調査」結果から、我が国における留学生の実態(不安、苦勞、日本に対する印象、就職等)が説明されました。また併せて、本学における留学生受入状況も説明されました。

続いて、日本学生支援機構による「平成28年度(2016年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書」結果を基に、障がいをもつ学生の実態(障がいの種別と程度の多様性、特に多くみられる障がい等)が説明されました。また併せて、障がいをもつ学生に対する授業での配慮の必要性についても強調されました。

②インクルージョンを阻むアンコンシャスバイアスと、その対策

次に、日本私立大学連盟FD推進ワークショップ(平成30年6月実施)において、荒金雅子氏(株式会社クオリア 代表取締役)が行った講演内容(テーマ:「私立大学におけるダイバーシティ&インクルージョン推進の意義と重要性」)が紹介されました。その際には、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)推進の課題と、阻害要因となりうるアンコンシャスバイアス(無意識の偏見)の詳細や対策が説明されました。また併せて、企業や大学におけるD&I推進の試みも紹介されました。

③本学の現状と課題

上記を踏まえ、最後に、本学のダイバーシティ&インクルージョンの現状と課題とが説明されました。そして、ダイバーシティを学ぶ場として大学を捉えることで、学生達に成長機会を提供できること、また、インクルージョン活動の積極支援の重要性が強調されました。

所感

お話の中にあつた「ピアサポート活動」、例えば、留学生や障がいをもつ学生のバディを募集してサポートをお願いするボランティア活動等は、バディを担当する学生自身も、多くのことを学べる機会となるなど感じました。また同様にお話の中にあつた「留学生や障がい学生が参加できる課外活動」についても、例えば「中国ウィーク」「タイウィーク」といった、マイノリティー学生自身が発信する行事の実施・支援が、本学のダイバーシティ&インクルージョンに有益ではないかと感じられました。

本研修を通じて、言語背景や障がいの有無等に関わらず、全ての学生が、「駒大に来てよかった」と思ってくれるような環境を目指していくことが重要だと感じました。

(FD推進委員会小委員会副委員長・杉森 建太郎)

第 6 回 F D 研修会

「平成 30 年度学生が選ぶ

ベスト・ティーチング賞受賞科目にみる 教育方法と教育活動の質の向上」

去る平成 31 年 2 月 1 日 (金) 午後 4 時 30 分より中央講堂において、今年度第 6 回の F D 研修会が行われた。今回の研修会は第 3 回「学生が選ぶベスト・ティーチング賞 (Best Teaching Award ; 以下、BTA と略称)」の受賞科目担当者 7 名の内、専門教育科目部門で受賞した「グローバル経営論」各務洋子先生 (GMS 学部・教授)、全学共通科目部門で受賞した「心理学」の小野洋平先生 (文学部心理学科・非常勤講師)、教職科目部門で受賞した「教職入門」笠谷一夫先生 (総合教育研究部教職課程部門・非常勤講師) を講師として招聘し、「平成 30 年度学生

が選ぶベスト・ティーチング賞受賞科目にみる教育方法と教育活動の質の向上」と題してそれぞれご講演頂いた。

各務先生は、経営学が身近なものであることを実感させるために、新聞を教材に今日的な課題を取り上げるといふ工夫を紹介された。小野先生は、学士教育に求められる PDCA サイクルに基づく指導を心理学的な知見を踏まえて実践し、学生各自が役に立つ、面白い学習ということを実感させる授業を目指した旨が示された。笠谷先生は本学での授業は初めてであったが、高校教員等としての豊富な教育経験を踏まえ、実体験の紹介などを通して興味を抱かせる工夫などをなされた旨、お話があつた。

いずれの先生もリアクションペーパーを活用するなどして学生の意旨や理解を汲み取る工夫や、学生の能動的な学習を引き出すアクティブラーニングが意識されていたと思われる。全教員が共有し各自が咀嚼すべき点であつたと思われる。

なお、これまでの F D 研修会の模様は映像化され、本学 Web ページ内「大学概要」の「F D 活動」コンテンツのひとつとしてアーカイブされる。欠席された教職員は是非と御覧頂きたい。

(FD推進委員会小委員会委員・岩永 正晴)

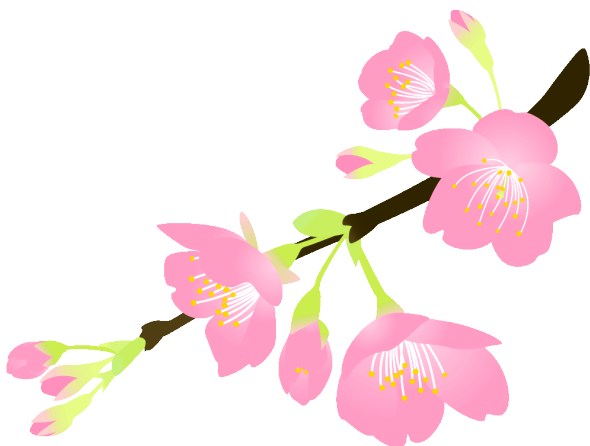


(第 6 回 F D 研修会の様子)

平成 31 年度新規採用教員オリエンテーション 開催のお知らせ

新規採用の専任教員及び非常勤講師を対象にした「平成 31 年度新規採用教員オリエンテーション」を、平成 31 年 4 月 1 日（月）に本部棟中央講堂にて開催いたします。

オリエンテーションを開催する目的は、本学の建学の理念、教育目的を理解いただき、授業に臨んでいただくこと、本学の様々な施設や事務手続きをお知らせし、授業を円滑に進めていただきたいこと、そして実際の授業運営にあたって、個人情報保護やハラスメント防止に留意していただきたいこと等をお伝えすることにあります。



※駒澤大学 F D (Faculty Development) ホームページは、以下 URL か QR コードからアクセスできます。

【URL】 <https://www.komazawa-u.ac.jp/about/fd/>



編集後記

『FD NEWSLETTER 第 58 号』をお届けいたします。

巻頭言は、文学部長橋詰先生に、また、連載企画「よりよい教育のために」は、仏教学部徳野先生にご執筆いただきました。また、本年度後期の学生アンケートの分析結果、第 6 回 F D 研修会報告、BTA 授賞式報告は、第 58 号編集委員である岩永委員が担当し、第 5 回 F D 研修会報告は本学 F D 推進委員会小委員会副委員長である杉森先生に執筆いただきました。お忙しい中ご執筆いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

さて、今年度末をもって現委員の任期は終わり、来年度からは各学部より選出された新しい委員体制でさらなる F D 活動の推進・充実がなされることと思います。2 年間の短い任期中にも大学設置基準、評価基準、補助要件など様々な形で外部から F D への取り組み方に関する方針や基準等が示され、既に本学で取り組んでいる授業アンケートやベストティーチング賞などの諸活動もそれらの方針や基準に沿った形にすべく修正・変更を知恵を絞り議論を交わす場面が多かったように思います。この修正・変更作業はまだまだ道半ばであり、きっとこれからも新たな要件が提示され、それをクリアするために様々な改革に取り組み続けなければならないのだろうと考えます。これらの改革は F D 委員会のみでは為しえないことであり、全教職員の理解と協力のもとで取り組んでいかなければなりません。今後とも、ますます F D 活動に熱いご協力をお願い申し上げます。

(岩永正晴・川上富雄)

【タイトル横の写真は、
ベスト・ティーチング賞授賞式での副学長挨拶】

FD NEWSLETTER Mar. 2019 第 58 号

発行日：2019 年 3 月 15 日

発行者：駒澤大学 F D 推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444 Fax 03-3418-9114

(事務局：教務部)